

# 先進理工類型2年生 大阪工業大学(梅田キャンパス)にて研修 5月22日(金)

## 模擬授業① システム工学科 「触れ合いロボットのためのサーボモータの制御を体験しよう」

ロボティクス&デザイン工学部 システムデザイン工学科共生インタラクション研究室

特任講師 大西 裕也

ロボットや情報技術は社会の中で身近な存在になりつつありますが、単に機能が優れているだけでなく、人が安心して関われ、親しみを持てることが重要です。本研究室では、人とロボット、人とシステムが無理なく共に存在し、自然に関わり合うためのインタラクションの在り方について研究しています。特に、ロボットがもつ身体性や振る舞いに着目し、人がどのように感じ、どのような関係を築くのかを探究します。ロボットやシステムを実際に作り、人がそれをどのように体験するかを確かめることを繰り返しながら、将来の共生社会につながるインタラクションの創出を目指します。

(大阪工業大学 HP より)



## キャンパスツアー・紹介





模擬授業② ロボット工学科 廣井先生 「体験で学ぼうロボットの動く仕組み」

大阪工業大学 ロボティクス&デザイン工学部 ロボット工学科 教授 廣井 富

私が考える生活支援ロボットは、身の回りのちょっとした不便をロボット技術で解決（支援）するものです。

生活支援ロボットの中で「究極」のものは、「子どもと遊ぶことができるロボット」だと思っています。子どもは、急に飛び出したり、大人の予想通りの動きをしません。子供に対応するためには、「安全・安心、人の認識、物体の認識、環境認識、障害物回避、センサ統合、高安全マニピュレータ、動作予告、ヒューマンロボットインタラクションなど」 様々な技術が必要です。

さて、この「究極」の生活支援ロボットが開発されると世の中がどう変わると思いますか？

(大阪工業大学 HP より)

